

・上記は、とぐろを巻く蛇(エネルギー)がスシュムナーを上昇する為にイダー(左の気道)とピンガラ(右の気道)が作用していること、または心や思考の善悪、陰陽をアスラと神々にたとえて、それら相反するものが一つの内にあることを表し、その両者が協力するがゆえに一つの目的に達するために避けることの出来ない葛藤や対立を重ねながら成し遂げることを、とぐろを巻いた蛇を両者が引き合いエネルギーを高めていくと解釈する。

そして、目の前に目的が現れた時の心の在り方を教えている。すべてが善(光)になることはないだろう。悪(闇)があ

ってこそ本来の目的を目指すエネルギーになる。その割合が永遠に光が闇より勝っていることを豊穡の女神は祝福している。

バラタナーティヤムの道を歩むことで、ハタヨーガ・インド神話を深く掘り下げる機会を得た。そのつながりを知れば知るほど未知の道があることを知り、それは計り知れないと感じる一方、自身の内にある遠い記憶が甦り、その合点をたどる道でもあるように感じる。ひとりひとりの歩む道はさまざまだがその道はひとつの目的に導かれ、つながっている。